

製品名: BAF57/SMARCE1 (16D16) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07432**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:10-1:100,IP 1:10-1:100
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	SMARCE1
別名	BAF57; SMARCE1;
遺伝子 ID	6605.0
SwissProt ID	Q969G3
免疫原	ヒト BAF57 の合成ペプチド

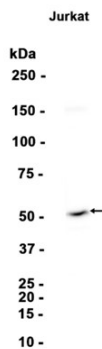
背景

クロマチンリモデリング (DNA-ヌクレオソームトポロジーの変化) による特定遺伝子の転写活性化および抑制に関与する。神経前駆

細胞特異的クロマチンリモデリング複合体（npBAF 複合体）およびニューロン特異的クロマチンリモデリング複合体（nBAF 複合体）に属する。クロマチンリモデリング（DNA-ヌクレオソームトポロジーの変化）による特定遺伝子の転写活性化および抑制に関与する。SWI/SNF クロマチンリモデリング複合体の構成要素であり、ATP 依存的にヌクレオソーム内の DNA-ヒストン接触を変化させることでクロマチン構造を変化させる重要な酵素活性を有する。神経前駆細胞特異的クロマチンリモデリング複合体（npBAF 複合体）およびニューロン特異的クロマチンリモデリング複合体（nBAF 複合体）に属する。神経発生の過程において、ニューロンが細胞周期を終え成体状態へと移行するにつれて、幹 / 前駆細胞から有糸分裂後ニューロンへのクロマチンリモデリング機構の切り替えが起こります。増殖中の神経幹 / 前駆細胞から有糸分裂後ニューロンへの移行には、npBAF 複合体および nBAF 複合体のサブユニット構成の切り替えが必要です。神経前駆細胞が有糸分裂を終えニューロンへと分化すると、ACTL6A/BAF53A および PHF10/BAF45A を含む npBAF 複合体は、ニューロン特異的複合体（nBAF）において相同な ACTL6B/BAF53B および DPF1/BAF45B または DPF3/BAF45C サブユニットに置換されます。npBAF 複合体は、多能性神経幹細胞の自己複製 / 増殖能力に不可欠です。nBAF 複合体は CREST とともに、樹状突起の成長に必須な遺伝子の活性を制御する役割を果たします（類似性による）。SWI/SNF 複合体および SRC/p160 ファミリーのヒストンアセチルトランスフェラーゼ（HAT）によるエストロゲン応答性プロモーターの共活性化に必須です。また、CoREST コリプレッサーと特異的に相互作用し、非神経細胞における神経特異的遺伝子プロモーターの抑制を引き起こします。

研究分野

画像データ



BAF57/SMARCE1 (16D16) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。